

こだま Q&A



Q48

検査報告書に「溶血」と表示されてあったのですが、「溶血」を防ぐにはどのように採血したらよいのですか。

A48

「溶血」によって影響を受ける検査項目もあるため、『溶血を防ぐための採血時のポイント』を以下にお示しします。

- a. 採血時は消毒用アルコールが乾いてから注射針を刺します。
- b. ホルダー採血の場合
血液が採血管の底を直撃していたら少し傾けます。
泡立ちは溶血の原因となります。
- c. 注射器（シリンジ）採血の場合
血液が出にくい時、吸引に圧をかけ過ぎないようにします。
採血管に移すとき、採血管の陰圧のみで移します。
シリンジを押すと必ずといっていいほど溶血します。
- d. 採血管の容量よりも少量しか採血できなかった場合
採血管内に陰圧が残ったままの状態になり、その影響で溶血を起こす可能性があります。
もう一度採血針のみを栓に刺し、採血管内を平圧に戻します。
- e. 採血直後に4℃冷蔵庫に入れないようにします。
血球が壊れて溶血を起こします。

*日本臨床検査標準協議会(JCCLS)発行の『標準採血法ガイドライン第2版』を参考にしています。

お問合せ：☎代表 0120-14-7191(フリーダイヤル) / 082-247-7191(ダイヤルイン)

きやうちボール

今月号の検査室発記事では、抗CCP抗体の臨床的有用性を中心にお届けしました。当検査センターでは抗CCP抗体を平成26年4月に所内導入しています。

この抗CCP抗体は、感度、特異度ともに高く、関節リウマチの早期診断に有用なわけですが、関節が曲がってしまってからでは病院に行っても治らない結果となります。病状が出る前に抗CCP抗体は数値として表わされるので、早期診断に役立ちます。しかも当検査センターでは当日中に検査結果が出ます（至急検査の場合、センター到着後2時間程度で結果報告可）。先生方に喜んでいただければ所内導入した甲斐があります。保険の縛りはありますが（p8参照）、適切に検査していくことで、多くの患者さんにも喜んでいただければと切に祈っています。 藤井 ひとみ（検査科免疫血清係係長）

広報委員

谷敷 圭美 / 亀石 猛 / 熊川 良則 / 片山 智恵子 / 初岡 博 / 高磨 潤